

演 題 名	放牧子めん羊に集団発生した線虫（腸結節虫）症		
発 表 者 氏 名	小 室 徳 宏	所 属	飯田家畜保健衛生所
<p>昭和60年9月下旬、種付けの用に供するため、舎飼の経産めん羊12頭、当才めん羊3頭を、管内のAめん羊牧場（飼養規模：成雌40頭、雄3頭）に放牧したところ、10月中旬から当才めん羊全頭が貧血、下痢、脱水症状を呈し相次いで斃死した。</p> <p>病性鑑定の結果、剖検所見では腸壁に小結節の多発、糞便検査所見では腸結節虫卵を主体とした各種の線虫卵が検出された。また、病理検査所見でも腸壁の固有層に壊死巣が認められた。なお、細菌検査所見では、好気、嫌気培養とも菌種は分離されず腸結節虫症と診断した。</p> <p>10月中旬、同様に入牧した当才めん羊2頭について、塩酸レバミゾール製剤（40mg/kg）で駆虫した結果、本症の発生はみられなかった。</p>			